

令和8年度までの目標	国語		算数・数学	
	自校A B層の割合	50%	自校A B層の割合	60%

目標達成に向けた取組			
3つの観点	教員の指導力向上	基礎学力の保障	学習習慣の確立
学校全体の取組	- 各教科の問題解決における「自力解決」「学び合い」「振り返り」の場面を確実に設定する。 - 物事に対する見方、考え方や表現の仕方を身に付けるために、発達段階に応じた考える視点や思考ツールを提示する。 - 個別最適な学びを実現するため、一人1台端末やデジタル教材を積極的に活用する。	- 東京ベーシックドリル診断テストを年間6回実施。 第1回目 B問題(前学年)×2 第2回目 C問題(前学年)×2 第3回目 現行学年のA問題×2に取り組む。 - 毎週金曜日に中学習の時間を設定する。 - 算数科におけるワークテスト後の解説、再テストの時間を設定する。	- 年間3回実施の家庭学習週間での学年×10分の徹底。 - ミライシードを活用し、児童一人一人のレベルに合った問題に取り組ませていく。 - 毎週金曜日15分間の学習タイムの実施。 - 算数科ワークテストで80点以下の場合は再テストを実施。予め児童に周知することで、テストに対する意識を高めさせる。
特に支援が必要な児童・生徒への手立て	授業の終末の「振り返り」では、めあてに書かれているキーワードを入れて書くように指導する。	- 中学習の際に、担任が個別指導を行う。 - 放課後補習業者との連携。 - ミライシードで苦手分野の復習を繰り返し行う。	- 放課後補習教室への参加。 - 毎週金曜日に実施する学習タイムで個別指導を行う。 - ミライシードを毎日積み重ねる。
成果指標	全国学力調査「課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか」肯定的な回答80%以上	- 東京ベーシックドリル診断テスト平均正答率 低学年 90%以上 高学年 80%以上を目指す。 - 算数科ワークテスト平均正答率80%以上。	全国学力調査「授業時間以外の勉強時間」1時間以上の回答割合80%以上